

VOISTAGE マルチメディアカード基本ソフトウェア

リリースノート

Ver6.10.07.01

NTT データ先端技術(株) 2010/03/12

1. 変更内容一覧

以下のプログラムの不具合修正および仕様変更を行いました。

Ver6.10.07.01 2010.03.12

- ・ アナログ転送にて、転送先ヘダイヤル中に発信者が切断した場合、次の着信ができなくなる不具合の再修正をおこないました。
- ・ アドインのインストールとアンインストールをおこなうプログラム ADDIN03setup.exe を修正しました。

Ver6.10.07.00 2010.01.18

- ・ INS ネット 1500 対応の マルチメディアカード(VS-2301/2302/4601MC) にて、網の無応答状態が原因で切断した ISDN Layer2 を再リンクした後、まれに網と呼制御の状態不整合により通信できなくなることがある。
- ・ アナログ転送にて、転送先ヘダイヤル中に発信者が切断した場合、次の着信ができなくなる。
- ・ アナログ転送にて、転送先と通信中に TransferCancel()メソッドが失敗する。
- ・ マルチメディアカードの交換と増設を容易におこなえるようにするため、アドインのインストールとアンインストールをおこなうプログラム ADDIN03setup.exe を追加しました。また、インストールマニュアルに「8 マルチメディアカードの交換と増設」の章を追加しました。

Ver6.10.06.01 2009.07.16

- ・ 49.7 日間連続運転しているマシンにて、VOISTAGE スクリプトの WAITRING(着信待ち)命令を実行すると、まれに着信がくるまで永久に待ち続けてしまうことがある。

Ver6.10.06.00 2009.06.02

- ・ TTS(テキスト音声合成)で初期化と終了をおこなうたびにハンドルリークが発生する。
- ・ SG3 FAX 受信時の切断命令受信待ちで無効データを受けると、切断命令を受けずに終了することがある。
- ・ G3 FAX 受信処理において EOP 再送受信時に MCF を二重に応答してしまうことがある。
- ・ G3 FAX 受信処理において EOM 再送受信時に応答後の次の命令受信(EOM 再送)に失敗することがある。
- ・ HDLC 制御フレーム受信で FCS エラー検知ができないことがある。
- ・ G3 FAX 受信時のページ間ネゴシエーションで DIS 送信に対して送信側無応答の場合、T1 タイムアウトしないときがある。
- ・ G3 FAX 送信時、ECM 未使用時に RTC 送出数が規格の 6 個ではなく 5 個としていた。
- ・ VS-407MC での転送処理中に、発信者から切断されるとその後の転送ができなくなることがある。
- ・ FAX 通信時、回線のエコーの影響による画像データ受信障害の改善策として、V21 信号検出抑止時間を 200ms から 500ms に変更致しました。

Ver6.10.05.00 2009.02.10

- ・ マルチメディアカード(VS-407MC 等)へのメッセージ送信エラーが発生した場合、次の着信を通知しないままとなり、自己復旧できないことがある。

Ver6.10.04.00 2009.01.29

- ・ アナログ回線用カードで、転送処理中に発信者から転送をキャンセルされるとその後の転送ができなくなる不具合への対処。
- ・ ダイヤルパルスの認識性能の向上。(ダイヤルパルスに特定パターンのノイズが混入する FAX 機があるための対策)

Ver6.10.03.03 2009.01.16

- ・ VS-4601 と組み合わせて使用する FAX リソース 23 回線カードのインストールサポートの追加。

Ver6.10.03.02 2008.12.10

- ・ UPDATE.BAT でバージョンアップをおこなった場合に、まれに設定ファイル VOISTAGE.INI と VSPROLOG.INI のインストールパス関連の設定が不正になる現象への対処。
- ・ NTT PBX 用の回線特性データファイル AlphaGX.INI の追加。
- ・ カテゴリファイルの新規作成で FAX 送受信の圧縮モードの設定値を 0(MH)から 2(MMR EC)に変更した。

Ver6.10.03.01 2008.10.21

- ・ アンインストールなしでバージョンアップができるようにした。
- ・ バージョンアップ対応のため、以下の DLL ファイルのバージョン情報を変更。

StagePlayer0411.dll	5.0.3.0	-->	5.0.3.1
VSV0IFAX.DLL	6.10.0.1	-->	6.10.3.1
VSACTX21.ocx	6.10.2.4	-->	6.10.3.1
VSENGINE.exe	6.10.2.5	-->	6.10.3.1
VSFAXSET.EXE	6.10.0.2	-->	6.10.3.1
VSMS100.dll	6.10.2.4	-->	6.10.3.1
VSSUPER.EXE	6.10.2.4	-->	6.10.3.1
VSTOOLS.EXE	6.10.0.0	-->	6.10.3.1
Vsstgwtr.exe	6.10.0.0	-->	6.10.3.1

Ver6.10.03.00 未リリース

- ・ バージョン表記の変更
旧表記 Ver6.10SP3 パッチなし 新表記 Ver6.10.03.00
- ・ 発着信が衝突した場合、Dial コマンドで戻り値が -2 (ダイヤル失敗) ではなく、-1 (異常) となってしまう。

Ver6.10SP2Patch7 2008.01.25

- ・ 以下のいずれかの衝突が発生した場合、RecognVoice メソッドまたは VoicePlay メソッドの実行結果が数十秒間返らないことがある。
 - * 音声認識処理中の MethodCancel メソッドによる停止または認識タイムアウトによる停止と、回線切断が衝突した場合
 - * 音声再生処理中の MethodCancel メソッドによる停止と、回線切断または DTMF による停止が衝突した場合

本事象を基に以下の派生事象が発生することがあります。

*この事象が発生して実行結果が返らない間に次の着信があった場合、着信応答できなくなる。

*この事象が8回発生すると、以後発着信できなくなる。

Ver6.10SP2Patch6 2007.12.21

- ・Windows XP SP2 または Windows Server 2003 SP1 上で、StageWriter を終了すると、アプリケーションエラーが発生する。
- ・StagePalette でカテゴリーファイルを作成した場合、上限(11 バイト)を超える長さのファイル名を付与できず、その結果、カテゴリーファイルで設定した値が有効とならず、既定値で動作する。

Ver6.10SP2Patch5 2007.10.09

- ・VS-407MCまたはVS-202MCにおいて、FAX送信がエラーとなり、かつ相手から回線が切断されなかった場合、回線状態が「4:切断検出」となることがある。

Ver6.10SP2Patch4 2007.09.11

- ・VS-1202MC、VS-407MC または VS-202MC において、発着信が衝突した場合、発信者番号およびダイヤルイン番号が取得できないことがある。
- ・発着信が衝突した場合、LineCallSate プロパティの値が更新されず、AnswerCall メソッドを実行しても着信応答できないことがある。
- ・StagePlayer 使用時に、同じ回線を使うプロセスの起動を要求した場合、WAITRING 以外の処理中であってもプロセスが起動することがある。
- ・TextToWav、TextSpeech、TxVoicePlay メソッドにおいて、1500 バイトを超える文字列を指定して実行すると、アプリケーションがアベンドする。
- ・VS-4601MC において、ファームウェアの書換えを行うと、VOISTAGE CoreService が起動できないことがある。
- ・LinkPlayer メソッドがエラーとなった場合、以降の LinkPlayer メソッドも継続してエラーとなることがある。
- ・発着信が衝突した場合、以降の該当チャネルでの発着信がエラーとなることがある。
- ・FaxSend メソッドにおいて、送信ファイル名に存在しないファイルを指定して実行すると、アプリケーションがアベンドする。

Ver6.10SP2Patch3 2007.08.03

- ・FAX 登録ツールで 1 ファイル以上の画像が表示されている場合、新たにエクスプローラから FAX ファイルを選択しても自動的に表示できない。
- ・VOISTAGE CoreService が応答なし状態の場合、LinkPlayer メソッドの実行結果が、数十分間返らないことがある。
- ・スクリプトエンジンを、タスクマネージャおよび画面上の × ボタンから終了した場合、アベンドすることがある。
- ・VS-4601MC において、レイヤ 1 でのメッセージ送信エラーが発生した場合、自己復旧できないことがある。
- ・VS-801MB での FAX 送信において、2 ページ目以降にサイズの大きなページが含まれる場合、送信エラーになることがある。

※詳細は、[4.制限事項]参照のこと

Ver6.10SP2Patch2 2007.06.27

- ・VOISTAGE スクリプトの IF 命令において、変数および定数の値に 10 桁かつ、2147473647 以下の数値 (0000000000~2147473647)を指定して実行するとアプリケーションがアベンドする。
- ・複数ページを FAX 送信した場合、圧縮モード(符号化)が変更されていないにも関わらず、ページ間ネゴシエーションを行ってしまう。(フェーズ D の後にフェーズ C へ戻るべきところが、フェーズ D からフェーズ B へ遷移する)
- ・CPU 負荷が高い状態で LinkPlayer メソッドを実行した場合、アプリケーションがアベンドすることがある。
- ・VS-801MB での FAX 受信において、他の回線で受信した FAX データが混入することがある。
- ・アプリケーションを終了せずに、LinkPlayer メソッドと Terminate メソッドを繰り返し実行するとメモリークする。
- ・CPU 負荷が高い状態で LinkPlayer メソッドを実行した場合、実行結果が返らず、フリーズすることがある。
- ・VOISTAGE スクリプトの OPENTBL 命令において、カテゴリパラメータ「DB_Create」に 1 を設定し、OPENTBL 命令のパラメータ「DBNAME」に存在しない MDB ファイルを指定して実行しても、MDB ファイルが新規作成されない。
- ・VS-801MB での FAX 受信において、MethodCancel メソッドによって FAX 受信を中断もしくは、FAX 受信中にアプリケーションを強制終了すると、次回の LinkPlayer メソッドがエラーとなる。

Ver6.10SP2Patch1 2007.05.28

- ・VS-2302MC または VS-4601MC において、TransferStart メソッドがエラーになった後に音声再生できないことがある。
- ・VS-202MC または VS-407MC において、FAX 送信の開始と同時に相手から切断された場合、以降の着信に応答できないことがある。
- ・FAX 受信において、FAX_RECV_LIMIT_PAGES (FAX 受信ページ制限)と同ページ数受信すると、最終ページ受信時にエラーとなる。
- ・FAX 受信において、FAX_RECV_LIMIT_PAGES (FAX 受信ページ制限)が設定され、それを超えるページ数を送信されたとき、指定ページ数の受信が完了した時点で切断処理を行なうが、このとき受信応答 (MCF 送信)をせずに切断することがある。そのため送信側で送信失敗となる場合があり、送信完了枚数が一定にならない。
- ・TifToFax メソッドにおいて、モトローラ形式かつ 3 ページ以上の TIFF ファイルを変換元ファイルに指定した場合、戻り値がエラー(-1)となり、TIFF ファイルを FAX ファイルに変換できない。
- ・VS-202MC または VS-407MC での FAX 送信において、モトローラ形式かつ 3 ページ以上の TIFF ファイルを送信ファイルに指定した場合、FaxSend メソッドの戻り値がエラー(-1)となり、FAX 送信できない。
- ・VS-202MC または VS-407MC での FAX 送信において、TIFF ファイル、または 2 ページ以上の FAX ファイルを送信中に途中終了した場合、¥VOISTAGE¥TEMP フォルダにワークファイルが残ることがある。
- ・Getsetupinfo メソッドにおいて、G4-FAX 機などの非制限デジタル通信で着信した直後に、発信者番号が非通知の着信があった場合、前回着信時の発信者番号が取得されることがある。
- ・TifToFax メソッドにおいて、実在しない TIFF ファイルを変換元ファイルに指定した場合、アプリケーションがアベンドする。
- ・VS-801MB において、G4-FAX 機などの非制限デジタル通信で着信する毎に、ハンドルが 3 つずつ増加する。

- ・VoicePlay メソッドにおいて、WAVE ファイルを再生中に、DTMF 入力により停止した場合、本来は VoicePlay メソッドの戻り値が 0 となるべきところが、戻り値がエラー(-1)になることがある。
- ・VS-801MB において、網に対し呼設定を送信後、規定時間内(T303 タイマ)に網から応答が無い場合、その後の発着信ができなくなることがある。

Ver6.10SP2 2007.02.21

Ver6.10SP1Patch6 2007.02.06

Ver6.10SP1Patch4 2006.11.28

- ・VS-801MB で、発信と同時に LAN 切断が発生すると、以後その回線で発着信できない状態になることがある。

Ver6.10SP1Patch3 2006.11.06

- ・VoicePlay メソッド実行時、システムのメモリ不足等によって音声データ用のメモリ確保ができなかった場合、以降の全回線の VoicePlay メソッドがエラーになることがある。
- ・内線から ActiveXCT の Dial メソッドで発信して、発信タイムアウト(約 20s)で発信中止すると同時に相手が応答した場合、その後、この回線が発着信できなくなる状態になることがある。

Ver6.10SP1Patch2 2006.09.27

- ・カテゴリ AUTO_ONHOOK の設定値が 1 または 2 の場合、着信応答(AnswerCall メソッド)と相手切断がほぼ同時に起こったとき、着信または発信ができない状態になることがある。
- ・発信(Dial メソッド)を行い接続直後に相手切断された場合、接続中の切断となるはずが、発信処理中のエラーとなることがある。
- ・着信応答(AnswerCall メソッド)を行い接続直後に相手切断された場合、接続中の切断となるはずが、着信応答処理中のエラーとなることがある。
- ・FAX 送信時、ネゴシエーション結果 (FaxNegoNotice イベント)受信後、すぐに実行結果詳細情報取得 (Sense メソッド)等で送信完了ページ数を取得すると、実際のページ数より 1 つ少ないことがある。
- ・カテゴリ VOICE_PLAYMODE の値が 1 の場合、音声再生中(VoicePlay メソッド)に、回線切断(OnHook メソッド)したあと、発信できない状態になることがある。
- ・FAX 送信時、ControlNotice イベントが通知されると、その後 FAX 処理のタイムアウトまでの 16分間、応答しなくなることがある。
- ・VS-801MB で、デバイス異常発生時に、ControlNotice イベントが通知されないことがある。
- ・FAX 送信を行ったとき、相手 FAX 機の完了応答(MCF)受信後、続けて相手機から3秒以内に回線切断された場合、FAX送信エラー(相手機側からの途中終了)となる。
- ・StagePlayer 管理下で、動作するプロセス(アプリケーション)の設定が「強制的に回線を取得しない」設定になっているにもかかわらず、新たに同じ回線を使用する別プロセスを起動すると、起動中プロセスが強制終了させて新しいプロセスが起動する。

Ver6.10SP1Patch1 2006.09.22

- ・VS-202MC、および VS-407MC で、FAX 受信を行った場合、白と黒のランレングスが0と言う意味のなさないデータが8Kバイト以上連続した画データを受信すると、“VOISTAGE CoreService” サービスがアベンドする。